

白 河 の 風

やまなし

特集 職員の挑戦

巻頭随想

市町村リレー
まちづくり夢づくり

苦言提言

富士の国やまなし
国文祭

市町村の自主研究

がんばっていま～す。
電子自治体コーナー

3

Vol.31
March.
2012

シリーズ ま・ち・自・慢 葦崎市

Nirasaki-City



「葦崎市民交流センター ニコリ」 ～市民文化の創造・交流・コミュニティ活動の新たな拠点～

平成23年9月、JR葦崎駅前に葦崎市民交流センター「ニコリ」がオープンしました。「ニコリ」は旧ショッピングセンターを改修した施設で、町屋の縦格子を模した大型アルミルーバーとサッシ外側の武田菱のデザインにより、かつての甲州街道沿いの宿場町と「武田の里」を連想させる外観が特徴です。

1階には峡北地方の観光案内・物産販売、サッカーのまちにらさきに関する資料展示やVF甲府グッズ販売を行う「地域情報発信センター」、小林一三・保阪嘉内をはじめとする郷土の偉人に関する資料展示を行う「ふるさと偉人資料館」があり宮澤賢治から嘉内に宛てた書簡も複数展示されています。2階の「市立図書館」は最新のIT環境を備え、自宅PC・携帯から予約した本を予約棚から受け取ることもできます。3階は県産材をふんだんに使った大型遊具などを備え、子育て中の親子が気軽に遊びに来ることができる「屋内公園」のような「子育て支援センター」です。

世代を超えた多くの人々が気軽に立ち寄れる憩いの場、さまざまな交流・コミュニティ活動を楽しめる場、生涯にわたって学べる市民総参加型の新たなまちづくりの拠点、それが、葦崎市民交流センター「ニコリ」です。



お問い合わせ先

葦崎市民交流センター総合受付

葦崎市若宮一丁目2-50

TEL:0551-22-1121 FAX:0551-22-1122

URL:<http://www.nirasaki-nicori.jp>

白・治の風

やまなし Contents

まち自慢	韮崎市	
巻頭随想	暮らしと自然が輝く 交流のまち 富士川町長 志村 学	02
市町村リレー	西桂町	04
苦言提言	大阪からふるさと山梨を想う 大阪山梨県人会 会長 望月 靖允	08
特集「職員の挑戦」		09
特集1 こうふ食倶楽部の活動		10
特集2 子供服おさがりBANKプロジェクト		12
特集3 地域の活性化を願い女子力を結集		14
特集4 市川三郷町女性消防隊を結成して		16
特集5 庁舎内研修を通じた若手職員の自主研究と提言		18
富士の国やまなし国文祭		20
自治 Q & A		24
市町村の自主研究		27
がんばっていま～す。		30
電子自治体コーナー		32
はつらつ!!市町村職員		34
市町村振興協会たより		36
時の人		
編集後記		
Yamanashi JICHI no KAZE Vol.31 March.2012		



■表紙写真 乙ヶ妻のシダレザクラ（山梨市牧丘町室伏）

甲府方面から国道140号を北上し、放光寺付近で県道210号へと道を選ぶ。

小中学校を右手に見ながら、のどかなブドウ畑の中を進んでいくと、中牧神社北の交差点の右手、小高い丘の上に乙ヶ妻の桜はある。

盆地や富士の眺望がすばらしい場所に一本桜として佇み、ぽっと顔を赤らめたように咲く姿が可憐。

【山梨市提供】

巻頭

随想

富士川町長

志村 学

暮らしと自然が輝く交流のまち
「生涯」快適に暮らせるまちを目指して

富士川町長
志村 学
Manabu Shimura
PROFILE



昭和25年 1月 1日 山梨県南巨摩郡増穂町生まれ
昭和45年 山梨県庁に奉職
平成19年 増穂町長に就任
平成22年 富士川町長に就任
現在1期 62歳

[ZUISOU] 31
YAMANASHI
JICHI no KAZE 2012

県下で一番新しいまち

富士川町は、平成22年3月8日、増穂町と鵜沢町が合併してできた山梨県下で最も新しい町です。富士川町誕生により、全国の市の数が町村の数を逆転しました。

町名の富士川は、かつて交易のあった富士川舟運によって、青柳河岸や鵜沢河岸、黒沢河岸が甲州三河岸として栄え、歴史的にも深い関わりがあることや、地理的にも理解しやすく、日本3大急流として知名度も高いことから選ばれました。

町の概況

本町は、甲府盆地の南西端に位置しており、東に日本3大急流の富士

川が流れ、西に山梨百名山の櫛形山、源氏山など2、000m級の山々がそびえ、町土の約85%を森林と農用地が占める緑豊かな町です。

江戸時代には、富士川舟運による内陸交通の要衝として栄え、甲州3河岸の「鵜沢河岸」「青柳河岸」を有し、県内各地に広範な商圏を持つ商業の町として栄え、現在も往時の寺院や史跡など多く残されています。また、特産品である「ゆず」や「トマト」「西洋なし」などの農産物の栽培が盛んに行われるとともに、伝統工芸である臼などの木工品の製造も行われています。最近では、臼を利用した「臼太鼓」や太鼓の形をしたハンコ「太鼓判」など新製品も出てきています。

町の自慢

・ダイヤモンド富士

本町高下地区は、雄大な富士山が拝める絶景ポイントです。更に圧巻なのは、富士山頂からの日の出が拝める「ダイヤモンド富士」。このダイヤモンド富士が冬至から元旦にかけて



・甲州富士川まつり

直径、深さともに1・5mの大釜を使い、名産のゆずを入れた「ゆずの里大釜ほうとう」。毎年、長蛇の列ができ、3、000食のほうとうも瞬く間に無くなるほどの人気です。また、特産品の「うす」を使い各地区ごとに趣向を凝らした「つきたておもちコーナー」など盛りだくさんの内容です。また、この祭りでは、リユ―

ス食器を使い、環境にやさしいお祭りとして定着しています。



・みみ

「みみ」は十谷地区に伝わる伝統料理です。ほうとうに似ていますが、小麦粉をこねたものを農具の「箕」に似た形にするのが特徴です。郷土料理伝承施設『つくたべかん』では、この「みみ」づくりの体験教室を行っています。本町のグルメ「みみ」に特産のゆずを入れてご賞味ください。

富士川町のまちづくり

富士川町のまちづくりは、住民一人ひとりが、地域に誇りと愛情を感じながら、この地で生きていくことを自覚し、さまざまなアイデアを出

しながら、キラリと光る個性と魅力のあるまちをみんなで創りあげていくことを基本にしています。そこで、次の3つを基本理念に展開しています。

①自然息づく きらめきの郷

まちに広がる美しく豊かな自然は、町民にとってかけがえのない財産であり、私たちの暮らしや産業活動の源となっています。この豊かな自然をみんなで守り育てながら、次代へと引き継いでいくため、人と自然の調和のとれたまちを目指します。

②心つるおう ふれあいの郷

誰もがいつまでも笑顔で暮らせるような地域社会を築いていくことが望まれます。そのため、人と人がやさしさを持つて支えあい、様々な世代の人々との交流を通して、生きがいを感じながら生活できるまちを目指します。

③人・もの集つ とぎめきの郷

中部横断自動車道の開通によって、太平洋と日本海を結ぶ交流拠点になろうとしています。こうした社会経済情勢の変化を好機ととらえ、計画的な都市基盤整備を進め、持続的な経済活力を生み出すさまざまな産業が根付き、人やものが行き交う、にぎわいのあるまちを目指します。

富士川町の取り組み

・ 峡南北部地域の医療再生

峡南北部における地域医療体制は、市川三郷町立病院、鰍沢病院、峡南病院の3病院が共に抱える課題として常勤医不足が挙げられます。この地域に必要な医療を確保していくためには、医師などを集約して、中核となる病院が必要であると考えます。こうしたことから、地域の病院の再編を医療再生計画に位置づけ、市川三郷町・富士川町新病院設置協議会を設立し、検討を進めているところです。

・ 道の駅構想

峡南地域の玄関口として、立ち寄る人々がもつこの地を巡りたくなる魅力の一大発信基地とする施設テーマのほか、配置したい施設や運営などの提言が出され、それに向けて具体的な施設機能などについて協議を進めているところです。

・ 国民文化祭

平成25年に開催される国民文化祭において、本町では「和太鼓の祭典」と「山車巡行祭り」を開催します。この祭り実施に向けた機運の醸成をはかり、町民が一体となって成功させるために鋭意努めているところです。

人の絆

富士川町民憲章

人の絆と

ぬくもりを大切に
共に働き学び合い
互いを認め助け合う
笑顔あふれる
町をつくりまします

源座敷や源氏山にいだかれて、富士川の清流が育んだ豊かな自然と文化の郷で、私たちは、富士川町民であることに誇りと責任をもって、未来を語り、力を合わせてしあわせな町をつくるため、ここに町民憲章を定めます。

平成二十三年三月八日

富士川町民憲章は、平成23年3月8日の合併一周年記念に制定されました。くしくも、その3日後、未曾有の大震災「東日本大震災」が発生しました。この震災で、町民憲章の最初でうたった「人の絆」がクローズアップされ、平成23年の今年の漢字にも「絆」が選ばれるなど、人と人との絆が重要となっています。富士川町民は、この町民憲章を胸に、まちの将来像「暮らしと自然が輝く 交流のまち」生涯快適に暮らせるまちを目指して「人を指し、町民と行政が協働したまちづくり」を推進してまいります。

まちづくり夢づくり

MACHIZUKURI YUMEZUKURI

31

西桂町

町の紹介

山梨県の南東部、南都留郡のほぼ中央に位置し、北に三ツ峠山、南に倉見山、そして南西には雄大な富士山を望むことができる、美しい景観と自然に恵まれた緑豊かな山間の小さな町です。

人口約4,700人、総面積約15km²のうち75%が山林で、平地部でも標高600m以上であるため、例年、平均気温10℃、降雨量1,500mm程度の内地型内陸気候の特徴をみせております。

東京都心からほぼ100km圏内に位置し、国際的な観光地である富士箱根伊豆国立公園の一翼を担い、豊富な水と緑に加えて目の前には雄大な富士山を望むことができます。

西桂町を含む南都留、北都留の両郡



倉見山展望地からの富士山

は、甲府地方の国中に対し郡内と呼ばれ、戦国時代、武田家の武将小山田家の所領でした。当時からすでに桂川の水を利用した絹織物の生産が行われ、重要な産業となっていました。

当町の歴史は、明治8年、町村合併により、当時の8ヶ村が合併して桂村

が誕生。明治26年には、東桂村と西桂村に分村し、昭和27年9月15日、町制施行により当町の前身である西桂町が誕生しました。その後、昭和35年町村合併の政策による境界線変更により一部が富士吉田市に編入され現在の町域として今日に至っています。そ

して、本年9月には、町制が施行されてから60周年の節目の年を迎えます。

当町では昨年度、社会情勢の変化を踏まえつつ、目指すべきまちの将来像を定め、今後のまちづくりの指針となる「西桂町第5次長期総合計画」を策定しました。

計画では、「豊かな心を育む人づくり」、「地域の魅力が輝くまちづくり」、「参画と協働によるまちづくり」を基本理念として、町の将来像「人が輝く、地域が輝くまち にかつら」の実現を目標に、今後10年間の取り組むべき基本方針として、

- 1、未来を拓く、心豊かな人を育むまち
 - 2、支え合い、いきいきと暮らせるまち
 - 3、安心で快適な住みよいまち
 - 4、自然と調和したうるおいあるまち
 - 5、にぎわいと活力あふれるまち
 - 6、町民と手を携えてつくるまち
- の6項目を掲げ、計画の初年度である本年より各種事業に取り組んでいるところであります。

交通の基幹は、町内を東西に国道139号線が走っておりますが、近年の慢性的な交通渋滞や、火山・地震等の防災面から現在整備中である県道が新たな幹線道路として期待されており、また、富士吉田市との市町境に中央自動車道（富士吉田線）のスマートインターチェンジの設置も計画されていることから、今後更に当町へのアクセスが向上されると同時に、沿線における新たな土地利用についての

期待も大きくなっています。また、鉄道においては、河口湖駅と大月駅を結ぶ富士急行線が国道と並走する形で町を横断しており、「三つ峠駅」は、三ツ峠登山の玄関口として、また都心への連結も良いことから通勤通学の足として多くの方に利用されています。

町の主な産業は、「甲州織り」と呼ばれる千年もの長い歴史を持つ織物産業と、近年の自然の恵みを利用したミネラルウォーター産業となっております。

織物産業については、長い歴史を経て繊維の素材や作り方も変わり、軒数も少なくなりましたが、その技術と伝統は連綿と受け継がれております。

甲州織の特徴は、先に糸を染めてから織る先染め技法。糸を染色するにはきれいな水が大量に必要となりますが、豊富な水があったからこそ、西桂町の織物産業は発展できたと考えられています。

現在では、安価な海外製品の流入に苦慮する繊維業界にあつて、有名デザイナーとのコラボレートによる商品開発に取り組んだり、販路を求めて国際的な展示場での見本市へ出展したり西桂町の織物産

業を活性化すべく、斬新な発想と行動力で新しい時代への展開が図られております。先人から受け継いだ技術と歴史に培われた伝統に、新しいテイストを加えた新しい「甲州織」への挑戦が日々続けられています。

一方、新たな特産品として急成長しているのがミネラルウォーターです。

町内の数か所で湧出している富士山の伏流水が、ミネラルや炭酸イオン・バナジウムを豊富に含むおいしい水であることから、昭和60年から町の特産品として商品化するとともに、町の基幹産業として企業の育成にも取り組んできました。地下数十mからくみ上げた伏流水を低温殺菌しただけの「生きた水」。ピュアでおいしい水として市場での人気も高く、今後ますますの発展が期待されています。



うまい水



三ツ峠からの富士山

町のシンボル、三ツ峠

富士急行線「三ツ峠駅」に降り立ち、北西の方角を見上げると、コブのような三つの峰が連なる独特の山容が目飛び込んできます。西桂町のシンボルでもある三ツ峠です。三つ連なる頂の中、一番高くそびえるのが標高1,786mの三ツ峠山(別名：開運山)です。

富士箱根伊豆国立公園に指定されている山頂付近は、富士山や南アルプス連峰、奥秩父など雄大な山並みが眺望できるスポットであり、中でも富士山展望の名所として知られ、NHKや民放局が映し出す富士山の映像は、まさにこの三ツ峠の山頂カメラから全国へ発信されているものであります。また、気象条件によつては、現在建設中の「東京スカイツリー」も目視することが出来ます。

このほか、高さ数百メートルにも及ぶ絶壁「屏風岩」は、ロッククライミングのメッカとして、また、アツモリソウやイワキンバイなどの希少な高山植物の宝庫として、本格的な登山からロッククライミングやハイキングまで幅広い楽しみを提供する山として、一年を通して賑わいを見せており、近年の登山ブームに相まって、多くの方が訪れております。

このような観光のシンボルでもある三ツ峠ですが、古くは富士山に次ぐ関東一の霊山として知られ、江戸時代



アツモリソウ (高山植物)

末期の三ツ峠は登山や観光とはまた違う顔、山岳宗教を行う場所として、そして信仰の山としてその名を馳せておりました。

江戸時代末期に空胎上人により霊場として開かれて以来、三ツ峠は信仰者の間で「神鈴峯」と呼ばれていました。「みすずみね」と読むこの名前、何とも神聖で美しい呼び名ですが、「みすず」とは笹或いは篠のこと、この植物が山中に多く生育していることがその名の由来といわれています。



神鈴峯絵図

安産や病氣治療などの護符や祈禱、そして西桂町の一時代を担った産業である養蚕の神様として人々の信仰を集めていた「神鈴峯」。今では養蚕の神様の信仰がわずかに伝承されているだけで、信仰者が途絶えて久しい今も、山中には開山時や多くの信仰者が入山した往事を偲ぶことのできる石仏や祠などの史跡が数多く残されており、今でも訪れる人々にかつての信仰の深さを伝えていきます。三ツ峠登山は、先人の思いをたどる旅でもあるのです。

三ツ峠とともに歩んできた町

西桂町に住む人は、古よりこの山を愛し、ともに発展してきました。その象徴の一つが、三ツ峠登山道の麓にある「三ツ峠グリーンセンター」です。宿泊や入浴施設を備え、登山者など訪れる人を温かく迎える一方で、趣味や文化活動、スポーツなどの催しや、三ツ峠清掃などのボランティア活動等の拠点ともなっており、三ツ峠の豊かな

自然を通して人々が集う大切な交流の場となっています。

古くから河川や水路の美化活動や三ツ峠清掃など、山を守り、川を守るための活動も町をあげて実施されており、高齢者を中心とした「西桂をきれいにする会」などはそのシンボリックな存在の一つとなっています。

また、例年、春には恒例の「三ツ峠歩け歩け運動」が開催されています。大勢の町民が参加し、体力増進はもちろんのこと、三ツ峠山と共に歩んできた町ならではのイベントとなっており、その思いは親から子、そして孫へと連



三ツ峠グリーンセンターと三ツ峠

綿と受け継がれていくものと確信しております。

新たな地域資源の発掘・保全

近年の登山ブームもあり、新たな富士山眺望のスポットとして町の南側に位置する倉見山登山道を平成20年度より整備しております。今まで当町の麓から山頂まで確立した登山道がありませんでしたが、富士山ビューポイントとして登山道や案内看板を設置し、新たな観光拠点としての位置付けを致しました。

また、この倉見山の麓には、数年前までは環境省レッドデータブックで絶滅危惧種とされている「クマガイ草群生地」として、ピーク時には約3万株もの花が群生していたことで知られていました。この群生地は土地所有者が3株程度より長い年月を費やして生育させてきたものであり、5月の連休頃になると無料で一般公開を行ってきました。元来、生育適条件が狭く群生地の環境の変化に非常に影響されやすい植物であり、病雑菌の繁殖、盗掘等様々な条件が重なったことも原因となり、近年では当時の10分の1以下まで数を減らしてしまいました。現在では一般公開を見合わせており、町としても、この貴重な植物の保全をすべく所有者と協定を結び、本格的な保全に着手しています。

最後に

平成の大合併により多くの市町村が合併する中、私たちの町は現在、単独町政を歩んでおります。今後は、「西桂町第5次長期総合計画」をまちづくりの指針として、新たな行政ニーズを的確に捉え、町民と行政との信頼関係を今まで以上に大切にしつつ、行政効率の良い、コンパクトな町の強みを最大限に活かし、「人が輝く、地域が輝くまち にしかつら」の実現に向けて取り組んでいきます。

クマガイソウの説明

学名:Cypripedium japonicum

別名:ホロカケソウ(母衣掛け草)

クマガイソウはラン科に属する多年草で高さは20～40cmほどになります。日本のランでは最も大きな花をつけます。4月下旬に淡白色地に紅紫色の網目状の筋が走る袋状の花をつけます。葉はひだがあり団扇状で、2枚が対生しています。群生しているところを見ると、全ての花が同じ方向を向いて咲いています。

この花の形が鎌倉武士、熊谷直実が背負った「母衣」に似ていることから「クマガイソウ」の名が付いたと言われています。なお、クマガイソウに対応させたアツモリソウ(敦盛草)というのがあります。こちらは平敦盛にちなむものです。

苦言提言

K u g e n T e i g e n

大阪からふるさと山梨を想う

私は大阪生まれ、大阪育ちであります
が、父が山梨県南巨摩郡下山村（現在の
身延町）生まれであったことから、幼い頃、
両親に連れられ、東海道線の夜行列車に
乗って父のふるさと山梨に幾度となく帰
りました。夜行列車に一晚中座り、翌日は
身延線に乗り換えるという大変な旅で、
子供心に山梨は遠いなあと感じながらも、

車窓から見た大きな山々や美しい自然に
は、心踊ったものでした。また、短期間では
ありませんが、山梨に疎開した経験もあ
ります。

あれから六十年以上が経ち、日本は高
度経済成長などにより大きく様変わり
しました。大阪でも戦後、軽工業から重化
学工業への転換が行われ、経済大国日本
の「翼を担うようになりました。山梨に目
を向けてみると、中央自動車道の全線開
通、中央線の高速化などにより、人、物の
流れが活発になり、経済や産業が大きく
発展したとともに、大阪から山梨への移動

もずいぶん楽になりました。また、私は幸
いにも大阪山梨県人会へ入会させていた
だけたことから、大阪に在住しながら山梨
出身の大勢の方々と知り合うことができ
ました。県人会の会合や行事では、いつも
山梨の話題が中心であり、今では私の心に
「ふるさと山梨」への特別な想いが刻まれ
ています。

ふるさと山梨は、日本一の富士山をはじ
め、八ヶ岳、南アルプスなど日本有数の山々
や昇仙峡、富士五湖、忍野八海など、豊か
な自然環境に恵まれています。その中で
育まれた桃やぶどうなどの果物、ワインと
いった他府県には真似ができない最高級の
素材もまた日本で、私は一人でも多くの
方々が山梨を訪れ、山梨の魅力に接して
ほしいといつも願っています。

しかし、一方で山梨を知れば知るほど気
がかりになっていることがあります。山梨
の魅力は、官民一体となり様々な方法でP
Rされていますが、大阪をはじめとする関

西圏において山梨の知名度が非常に低い
ことであります。山梨の位置を知らない
人が多い上に、富士山は静岡にある、桃や
ぶどうは岡山が主産地といった声を耳に
するたびに、山梨を代表するものまでも
が知られていないという現実に関心を痛めて
います。

私は常々、幼少期の体験や経験が大人
になつてからの思考や価値観に大きく影
響すると感じています。幼少期に自然と
かかわる体験や活動が豊富な人ほど「学
力が高い」「やる気や生きがいをもってい
る人が多い」などといった調査結果もあり
ます。そこで、二つ提案があります。それは、
全国の子供達に来県してもらうための基
盤整備であります。山梨には全国に誇れ
る美しい景観や豊かな自然環境、美味し
い果物など素晴らしい素材が揃っていま
す。子供や親がどのような自然体験を望
んでいるかニーズを把握しながら、それらの
素材をフルに活用し、子供達が気軽に自



mochizuki yasumitsu

望月 靖允

望月建設株式会社 代表取締役会長
大阪山梨県人会 会長

然の中で農業体験や食育体験ができるよ
うな施設整備を行うとともに、その施設
を活用した修学旅行などの体験型ツアー
の造成を図ることで、多くの子供達に山
梨へ集ってもらえる県づくりを目指してい
ただきたいと考えます。また、そうした子
供達が十年、二十年先に自分の意志で再
訪したり、さらにその子供にも同じ体験を
させるために来県してくれることを期待
します。

遠回りと思うかもしれませんが、この取
り組みが、将来、山梨の知名度・認知度
向上や観光客増加に繋がっていくのではな
いでしょうか。山梨県では「おもてなしのや
まなし観光振興条例」が策定され、また、
中部横断自動車道やリニア中央新幹線の
整備が進み、県をあげて受け入れ態勢の
準備が進んでいると聞いています。「おも
てなし」とも併せて是非ご一考いただきたい
と願います。



特集

やまなし

自治の風

Feature Vol.31 March.2012

「職員の挑戦」

甲府市の若手職員有志で結成された「みなさまの縁をとりもつ隊」は、食を通じたまちおこしに取り組み、「第5回B-1グランプリ」において初参加にもかかわらずゴールドグランプリを受賞されました。この活躍は、多数のマスコミで取り上げられるなど、甲府市を全国的に大きくアピールすることとなりました。

現在、こうした甲府市の取り組みをはじめ、他の市町村においても地域の活性化や当面する課題の解決に向け、職員の自主的・主体的な取り組みが盛んに行われています。

また、職員の自由な発想と創意工夫を行政に活かすための職員提案制度の導入が図られております。

今回の特集は、積極的・主体的に課題等に挑戦する職員の取り組みや職員提案制度から具体的な事業実施までの取り組みを紹介いたします。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| ● [特集1] こうふ食倶楽部の活動 | 甲府市 教育委員会 学事課
係長 石川 孝 |
| ● [特集2] 子供服おさがりBANKプロジェクト | 南アルプス市 収税対策課
副主査 矢崎 秀和 |
| ● [特集3] 地域の活性化を願い女子力を結集 | 山梨市 観光課
副主査 戸泉 俊美 |
| ● [特集4] 市川三郷町女性消防隊を結成して | 市川三郷町 総務課防災防犯係
消防主任 中込 章 |
| ● [特集5] 庁舎内研修を通じた若手職員の
自主研究と提言 | 昭和町 総務課
副主幹係長 伊藤 直樹 |

特集

1

こうふ食倶楽部の活動

甲府市教育委員会 学事課
係長 石川 孝

NHK大河ドラマ「風林火山」が最終回を迎えた2007年12月に「こうふ食倶楽部」は結成された。大河ドラマの効果で生まれた甲府の賑わいを、このまま終わらせてはいけない、甲府市職員として、何かを始めなければいけないという思いからであった。

甲府の活性化のために倶楽部のメンバーで決めたテーマは「食」であった。人間が生きていくために必ず必要なもの

「食」。山梨・甲府の名物の食べ物といえ「ほうとう」がまず思い浮かぶ。こうふ食倶楽部の最初の活動は、地元のサッカーチームであるヴァンフォーレ甲府の地元開幕戦に訪れた皆様への、ほうとうの無料配布であった。ほうとうの作り方から学び、当時の倶楽部員は10人程度であったため、他の職員にお手伝いをお願いし、実行することができた。多くの方のご協力があれば、実行することは

をパッケージにしたチロルチョコを作成し、観光パンフレットやほうとうマップとともに、甲府駅前やヴァンフォーレ甲府の試合会場などで配布を行ってきた。昨年はこうふ食倶楽部のホームページも発信し、倶楽部の活動や甲府の名物、おすすめスポットなどを紹介している。
(<http://kofu-ku.pupu.jp/>)

できなかった。これが、こうふ食倶楽部の第一歩であった。その後、こうふ大好きまつり、信玄公祭り、静岡市で行われる大道芸ワールドカップなどのイベントに参加し、ほうとうを振舞ってきた。特に、現在信玄祭りの中で行われている信玄グルメ横丁の第一回目は、こうふ食倶楽部で企画・運営を行った。

倶楽部員が班に分かれて、駅周辺を歩いて回り、ほうとうが食べられるお店を紹介する「ほうとうマップ」も作成した。

また、ほうとう、甲州ワイン、甲府鳥もつ煮の写真

このような活動を倶楽部員全員で力をあわせて行ってきた。いるわけだが、こうふ食倶楽部が活動が続けていく上で、モットーとしていることは、公務ではなくあくまでボランティアであることから自分たちが無理をせず楽しむことである。ボランティア活動を長く続けるためには、最も重要なことだと思う。

倶楽部活動は本当に仲良く楽しく行っており、学生時代のクラブ活動や、学園祭の前のいろいろなイベントの準備をしている時のようである。倶楽部員のチームワークの良さ、そして、全員が甲府を元気にしたいという気持ちがあるからだと思う。

また、こうふ食倶楽部は、定期的に部

員全員を集めてミーティングを行うということはしていない。それぞれ家族があり、働く部署も違う。休日や余暇を返上してのボランティア活動のため、少しでも部員の負担を減らすためである。これは、倶楽部員同士の信頼によりできる





ものだと思っている。活動に強制参加させることもない。イベントへの参加など倶楽部員全員が集まったということはないが、人が集まらずに活動が出来なかったということはない。やむを得ない事情が無い限り、倶楽部員一人一人が、やる気があれば強制せずとも、自主的に活動に参加するのである。

そして忘れてはいけないことは、多くの方の協力があるからこそ活動が続けられているということである。

活動はほとんどが休日を返上して行われる。イベントへの参加準備のために、休暇をとらなければならず、職場の皆さんに迷惑をかけることもある。また、資金面も倶楽部員の毎月の部費だけ

では、とても足りない。

家族、職場など多くの方に見守られ、支えられて活動が続けられているのである。本当にありがたいことであり、感謝している。

このように多くの方に支えられながら、活動が続けてきた結果、昨年度京都府の笠置町で行われた、第26回国民文化祭の全国ご当地鍋フェスタにおいて、第3位（頑張ろう日本特別賞）を受賞することができた。

全国にほうとうを、甲府を今まで以上にPRすることができ、まだまだ足りないかもしれないが、ご協力いただいた皆さんに、少しでも恩返しができたと思う。

そして、この受賞は倶楽部の活性化にもつながり、倶楽部員に更なるやる気を与えた。

全国第3位となったが、これがゴールではない。これをステップに活動が続けて行くことが大事なことである。目標はあくまで「甲府を元気に！」である。何を持って甲府が元気になったと言えるのか、いつがゴールなのかは誰も分からない。とにかく突き進みたい。結成当初は10人程度であったが、倶楽部員も現在は33人となった。こうふ食倶楽部の可能性は、どんどん大きくなっている。これからも、ご協力いただいている皆様への感謝の気持ちを忘れず、こうふ食倶楽部員全員で楽しみながら活動を行きたい。



特集

2

子供服おさがりBANKプロジェクト

南アルプス市 収税対策課
副主査 矢崎 秀和

平成20年度に職員研修の一環として始まった政策づくり勉強会は、若手職員が通常業務終了後の限られた時間の中で協議、企画し、政策として提言するというものです。

平成22年冬、私達のグループは政策立案をする上で、大きなテーマを掲げました。それは「市にとって低コストで、かつ市民にとって有益な施策とは何か」でした。昨今の社会情勢を考えると高コストをかけることは現実的に不可能であることは明らかで、その上で市民に喜ばれる施策でなければ実現することはできないと考えたからです。

そこで真つ先に思い浮かんだのが環境問題に関する疑問でした。全国の治療体では、地球温暖化対策として二酸化炭素削減や3Rが推進されています。しかし一般的にエコやリサイクルはゴミとして廃棄されるより高コストでかつその効果を実感しにくいという面があると感じていました。目に見える形でリサイクルを実感できる施策はないか検討した結果、この「子供服おさがりBANK」は、提案されました。

施策の具体的な方法は、まず市内保育所に子供服回収BOX、通称「おさがりBOX」を設置し、家庭で不用となった

子供服を集めて、必要とする保護者に自由

に持ち帰ってもらうというものです。保育所が子供服交換の仲立ちをする中継機関としての役割を担っているところからおさがりBANKという名称にしました。この施策の利点は、保護者の方が保育所までの送迎のついでに子供服を持ち込み、持ち帰れること。また、子供は成長が早いいため、まだ十分に着られる服が集まりやすいということ、さらには投入するコストが低いという点です。

先進地の事例として用いた山形県上山市では、保育所内で引き取り手のなかった子供服はゴミとして処分されてしまうわけですが、私達はおさがり率

100%を目指し、さらに次の引き取り

手はないか検討しました。そして年に数回市のイベントにあわせてフリーマーケットを開催し、来場者に自由に引き取ってもらい、そこでもさらに残った服はボランティア団体を通じて、世界の貧しい国々へ送るという案に至りました。

その後事業化を目指すこととなり、平成22年6月にプロジェクトチームが設置されました。事務局となる政策推進課や子育て支援課等庁内関係課、さらには子育て支援NPO等が加わり、事業の実施に向けて協議が始まりました。私達政策づくり勉強会の企画書を原案としながらも、実施主体が保育所・保護者・

NPOであることや、この取り組みを親

同士の交流のきっかけにすることはできないだろうか、との議論を経てこの企画は「子育て支援事業」、「市民と協働」

「資源の有効活用」を柱として進めていくこととなりました。事業試行を検討する中で、立案段階から懸念されていたことが取り上げられました。保育所側の負担や粗悪品ばかりが持ち込まれはしないかという点、そしてもう一つが保育所で交換されなかった服がフリーマーケットで活用できるのか、保護者同士のおさがりの後では良いものは残らず、売り物にならないのではないかとという指摘です。そこで実施方法を2パターン用



政策作り勉強会



プロジェクトチーム検討会



意し、試行していくこととなりました。すなわち、第一段階で持ち帰られなかった服を県内授産施設へ贈り、バザーや海外支援に有効活用するという原案に近い方法と、保育所を持ち込みのみの場とし、子育てNPOによる子育て支援事業



イベントに利用する方法です。10月に入り、原案に近い方法を採用した若草保育所で初めての「おさがりBOX」が設置されました。設置当初はテレビの取材もあり、BOXの前を通り過ぎる保護者ばかりでしたが、子供服

子ども服 おさがりBANK

始まります!

ご利用方法 *利用時間帯は、送迎時です。

①持ち込み

②持ち帰り

③リサイクル・海外等へ

☆持ち込み手順 ①おさがりBOXに子供服を入れる。

②机の上の「持ち込み用ノート」に、持ち込み日、衣類種類（上着、ズボン、スカート等）、着数、氏名を記入。

☆持ち帰り手順 ①おさがりボックス、ハンガーからお気に入りの服を選ぶ。

②「持ち帰り用ノート」に持ち帰り日、衣類種類（上着、ズボン、スカート等）、着数、氏名を記入。

注意事項

- 破れやシミなどの汚れがないもの
- 洗濯してあるもの
- サイズは140までのもの
- 持ち帰った服は責任をもって管理、処分をおこなってください。
- 服の転売は禁止とします。

※持ち込み品は、「衣類」限定です。
※交換されなかった服は、社会福祉法人にてリサイクル、海外支援に活用されます。

保育所によって、実施期間・方法が異なることがあります。
実施前には、保護者のみなさまに詳細をお知らせいたします。

利用してね

を持ち込む保護者が徐々に現れ始めると今度は中を覗き込む保護者も増えてきて初日は持ち込み219着、持ち帰り33着という結果になりました。おさがりBOXは1月までに10カ所の保育所で順次試行されましたが、当初懸念されていた粗悪品の持ち込みはほとんどなく、おさがり可能な服が予想以上に集まる結果となりました。事業の趣旨が保護者に正確に理解されたものと考えています。若草保育所ではその後も二週間単位で三度実施し、おさがり率はおおむね50%という結果になりました。もう一方のプランでもNPO版おさがりBANKを開催し、一日で130着が売れ、17,800円の売り上げがありました。

した。その後引き取り手のなかった服は県内授産施設に寄贈、施設での販売や、海外支援等にあててもらったこととなり、結果的におおむね100%のリサイクル率となりました。

平成23年12月末現在、おさがりBOXは公立保育所19カ所中18カ所で実施されています。この事業は、捨てられてしまう子供服を有効資源として捉えることで、低コストかつ保護者にも、負担をかけずにリサイクル循環システムの構築を図れるという、当初思い描いていたテーマに合致した施策になりました。今後も関係各所の要望や意見をもとに成長し、魅力のある継続的な事業になってほしいと思います。

おさがりBANKチラシ

特集

3

地域の活性化を願い女子力を結集

山梨市 観光課

副主査 戸泉

俊美

女子観光プロモーションチーム誕生

平成21年9月、市役所の女性職員のみで構成する「山梨市役所女子観光プロモーションチーム」（以下、女子プロ）を立ち上げました。

メンバーは、『私にできる！私が考える！山梨市の観光振興』をテーマとした、レポート提出によって選考された9人。

レポートの内容は、所属の業務を基本としつつ、それを観光に結び付けたり地域の特性を活かした提案が多くありました。

また、女性が求める〈健康・美・癒し・食〉をキーワードにしているのも興味深い点でした。

メンバーには、栄養士、防災士、アロマセラピストなどの資格を持つ人や、旅行・食べ歩き・温泉が趣味の人など、個性豊かな人材がそろいました。所属部署も年齢も異なるメンバーが、観光振興と地域の活性化を進めようという同じ思いを胸に活動が始まりました。

化を進めようという同じ思いを胸に活動が始まりました。



女子力を観光に活かす

山梨市には、日本百名山のひとつである甲武信ヶ岳や西沢渓谷「森林セラピー基

地」など、女性にも挑戦できる登山コースやハイキングコースがたくさんあります。

1

また、春や秋には、美しい景色を見ながらのウォーキングツアーなどが開催されているほか、温泉やフルーツも豊富な場所です。

そのため、山梨市には「女性の観光客」が比較的多く訪れています。このような状況を踏まえ「女性が魅力的だと思える観光環境を整えれば、今以上に観光客が増えるだろう」そのためには、「観光施策に女性の感覚や視点を反映させることも大切」と考え、所属課を超えたプロモーションチーム結成となったわけです。

女子プロのメンバーは、多趣味で旅行や温泉などにもよく出かけています。それに、習い事や食べ歩き、運動や美容にも興味がある人が多いので、「様々な視点から、

はじめの作品

「Strawberry&Ginger Jam」

女子プロが発足して5カ月後の平成22年2月には、「Strawberry&Ginger Jam」の発売にこぎつけました。

地域の特産品を利用した商品を研究する中で、栄養士の資格を持つメンバーが中心となり、「道の駅みとみ」産のいちごとショウガを使った「Strawberry&Ginger

おもしろい発想がうまれるかもしれない」と思いは膨らみました。



試食もしました

3



いちごジャム

冬の集客が課題となっている中、レシビを道の駅に提供し、発売から3カ月で約1000本の手作りジャムを販売し、三富

地域の特産品として位置づけることができました。

インバウンドに対応可能な観光地形成

4

平成21年度、22年度の2年間にわたり市町村調査研究事業の助成を受け、山梨市への女性観光客の誘致と観光客がより満足できる観光地の形成について調査研究を行いました。

また、研究資料の内容をメンバー及び観光課職員で検討し、その一部を英語版広報資料として山梨市ホームページに掲載しました。

その中で、インバウンドに対応可能な観光地形成について調査研究を進め、女性の視点から外国人が欲しいと思う情報をまとめました。

23年度には、姉妹都市アメリカアイオワ州スーシティ市から派遣されているALITのコーナーを設け、観光情報を英語、日本語で発信しています。

他団体との連携

5



香りのおもてなし講座

山梨市観光協会とは、平成21年度から共催事業として「おもてなし」をテーマに、メイク、接遇やアロマテラピーを利用した講座を開催しています。女性ならではの視点で一味違った「おもてなし」講座を企画し、観光業に携わる方の接遇向上とお客様をお迎えするための環境整備などを目指しています。



英語ホームページ作成



アロマハンドクリーム作り教室

今後の女子プロ展望

6

また、山梨市議会議員やボランティア観光ガイドの協力をいただき、山のPRを兼ねた観光地環境保全活動も行っています。



国師岳山頂にて

それぞれの個性を尊重し、その多様性を全員が認め合っているため、考え方が違っても否定的な発言はありません。むしろ、あらゆる方向に発展していく可能性を秘めていると言えます。

今後メンバーの所属の仕事を基本に、資格や特技を企画に活かす中で、観光のみならず様々な分野において、市の活性化と発展につながる活動を続けていきたいと思っています。

特集

4

市川三郷町女性消防隊を結成して 感謝の気持ちでいっぱいです

市川三郷町 総務課防災防犯係
消防主任 中込 章

平成23年4月1日、市川三郷町女性消防隊が設置されました。以前より当町消防団では、団員減少に歯止めをかけようと団員確保に努めてきましたが、団員確保は厳しい状況でした。そんな中、女性消防隊の設置が検討されました。

まず、誰をどのように募集するか。一般町民を対象に公募する案もありましたが、初めての試みであり1つの団体から組織したほうが活動もしやすいだろうと考え、町役場女性職員から募集することとなりました。また地域のお年よりや子どもと接する機会も多く、町に精通

しているのも有利と考えたからです。そこで女性職員を対象に入隊者を募りました。しかし、誰一人として入隊希望者は現れませんでした。

「はたして本当に結成できるのだろうか？」危機感を覚え、今度は女性職員全員を一同に集め、詳しく説明会を開催しました。私の熱意が通じたのか後日、12名の女性職員が入団の意向を示してくれました。

女性消防隊の活動は、年間をとおして10日間程度の主に火災予防活動と出初式、火災予防パレードなどです。



消防署員の指導による礼式訓練



軽可搬式小型ポンプ操法の練習



市川三郷町女性消防隊のメンバー



入団式で宣誓書を読み上げる丹澤女性消防隊長

入隊メンバーがほぼ決定し、4月1日の入団式までに、隊長を決め、制服を揃え、全国大会の練習方法を決め、慌しい日々が続きました。そして入団式では、女性消防隊の隊長が町内の全入団者32名を代表し宣誓を行いました。

入団までの間、何度か活動について協議しました。まず、いつまで消防隊をやるのか？これが1番大きな問題でした。実際に個人の自由ではなかなか辞められない、辞めづらいなどの意見があり、団員と同じ1期2年制としました。なおかつ、今回入隊した隊員は活動が軌道に乗るまでの2期4年間は活動すること

と決めました。

結成初年度、女性消防隊にとって最大の行事は「全国女性消防操法大会」への出場です。入隊を拒んでいた理由も、この件が大きな理由だと後から聞きました。

全国大会の練習は5月から始めました。男性団員もそうですが、仕事、家庭、子育てもある女性たちなので、なるべく負担にならないよう1時間の職務免除を頂き訓練することとなりました。

女性職員にとって右も左もわからない世界だったので、訓練は基本的な礼式から始まりました。消防署員、消防団員



全国大会出場にむけての激励会



緊張の中始まったポンプ操法本番

この全国大会では、結果以外のとても大きなものを手にした気がします。絆とか、仲間とか、仕事やプライベートルトでは味わえない経験ができました。全国大会が終了し息つく間もなく、一日消防署長、全国活性化交流大会、火災予防出発式、消防団出初式、そしてマスコミへの対応と想像以上

向かい風にあおられた放水先は大きく広がり標的にかかる水圧が弱くなってしまうのです。それでも何とか2つ目の標的を落とす、無事に操法を終了させることができましたが、目標のタイムを大きくロスする結果となってしまいました。しかし時間切れによって操法を中止させられる隊も出てくる中、選手たちは見事に操法をやり遂げ公式記録を残しました。

操法終了後、選手、隊員、皆で泣きました。指導員、職場、団長、男性団員、家族、支えてくれた人たち。いろいろな思いが頭をよぎりました。この方たちに立派な成績を報告できないことを、申し訳なく思う気持ちが強かったとのこと。



操法終了後、あふれる涙をこらえきれずに泣き出す隊員たち

からマンツーマンで指導を受け、ひとつずつ身に付けていきました。

練習を始め約1カ月後、ポンプ操法としての形はなんとか整ってきました。隊員全員が消防優先で出勤してくれたこと、隊員家族の理解や協力が大きな後押しとなりました。

9月に入っても訓練はある程度順調に進み、防災訓練や小学校運動会、支部激励会などの、人前で披露する機会を与えてもらいました。緊迫感のある中での操法でしたが、いずれの披露も見ていただいた方々から賞賛され、今までの練習にも自信が持て、一安心しました。

この翌週から練習を週2回から3回

に増やしました。それは全国大会入賞を目指したいという、隊員たちからの要望があつたからです。隊員からこのような声が出た事に対し、とてもうれしく思いました。

10月19日全国大会当日、この日のために38回練習し、多くの人に支えられ、山梨県の代表であることを胸に刻み当日を迎えました。

そして、いよいよ本番。我が隊の指揮者の声が会場に響きわたり操法が開始されました。機械回転、ホース展帳、エンジン始動、給水、放水、水が出るまで54秒！1つ目の標的が落ち、あと1つ！……落ちない。しばし呆然としました。強い

に反響は大きく、隊員、事務局ともに驚いています。

今後の活動としては町民から隊員を募集し、女性団員の更なる確保に努めていきます。また活動も活発化し、お年寄りや子供のいる場所へ出向き、火災予防、AED講習会、独居老人査察など、女性ならではのきめ細かい活動を行っていきたくと考えています。そして地域に根付いた、華のある消防団活動を進めていきます。

特集

5

庁舎内研修を通じた 若手職員の自主研究と提言

昭和町 総務課

副主幹係長 伊藤 直樹

まちづくりはひとつづくりから

1

昭和町ひとつづくりまちづくり研修会は、「関わりながら・参加する・階層別」の昭和町独自の研修体系です。平成19年2月に就任した角野町長の、「ものづくりよりひとつづくり」「まちづくりはひとつづくりから」という政治理念を活かした総務課主催の研修です。

階層は、①課長（管理職）、②係長、③中堅（30歳代）、④若手の4つ。課長達は人

事評価制度を通して、部下を育成。係長は「地区担当職員」として地域に飛び出し、地区と行政のパイプ役に。30代の中堅職員はJST（人事院監修のリーダー研修）を受講し、次期リーダーとしての力を備えます。若手↓中堅↓係長↓課長のサイクルを通して、息の長い人材育成を行います。

町長や仲間達との語らい

2

なかでも総務課が最も大事にしている階層は若手です。なぜなら将来、町をしょって立つのは彼らだから。

若手の研修メニューは3つ。ひとつは「キャリアアップ研修」。自分自身の過去

を振り返り、今を見つめ、未来の目標を定めます。その内容を「私の履歴書（若手作成オリジナル様式）」に書き込み総務課へ提出します。次ぎにこの履歴書に基づき、「町長との意見交換会（写真①）」に参加。町長室で昼ご飯を食べながら、

町長と懇談。自分の夢やまちづくりのアイデアを、町長や仲間の前で語ります。そして3つ目が、そのアイデアを共同研究し、提言する「フォローアップ研修（以下F研修）（写真②）」です。

共同研究にはまとまった人数が必要なので、隔年開催を予定しています。初年は1期生15人で実施。現在は、2期生として平成22・23年度採用の8人が研究活動を行っています。



写真① 意見交換会で、はいポーズ（ハハ）（2期生）



写真② F研修の一コマ（2期生）

全議員を前にプレゼンする若手

3

F研修に難しいルールはありません。期間は半年。研究テーマは自由。十人十色のアイデアの中から、何を選ぶかを決めるのも若手達。「仲間と一緒に協力して研究すること」……これが唯一のルールです。毎月2時間の定例会では、総務課の先輩職員

が、場の雰囲気や和らげチームを活性化させる「アイスブレイク（写真③）」や「企画のつくりかた」「プレゼンの留意点」などを教えながら、研究の進捗状況を確認します。研究そのものは、業務終了後や昼休みを中心に、自主性に委ねます。若手の



写真④ 緊張の議会プレゼン（1期生）



写真③ アイスブレイクを終えて（1期生）



写真⑤ 町長・課長プレゼン（1期生）

踏ん張りどころです。
そして迎える議会プレゼン。活動を終えた若手達は、昭和町議会「地方分権対策特別委員会（写真④）」の席にて、全議員を前にして提言を発表します。貴重な体験です。若手の頑張り温かく見守ってくれる町議会に感謝しています。
しかしその前に、まずは町長や課長達への発表が待っています。「そこそこ、どうなつてんの？」（写真⑤）などと課長達から厳しいつつみが入ります。若手職員はこの試練を乗り越えて（笑）、議会プレゼンの日を迎えます。

「若い職員の芽をつぶさないように、よく面倒をみてくれ」と、町長は機会あるごとに課長達に話をしています。その言葉通り上司は若手に関わり、若手は先輩にもまれながら、日々成長を続けています。
1期生の提案から採用された「公用自転車」の導入は、提案者自らが最後まで関わり、昨年末実現しました（写真⑥）。また、「小学校ブライダル」は現在も、提案者達が教育委員会や学校長と日程調整を行い、11月10日の実施に向けて活動が続いています。
若手は研修中に何度も「自分たちで実行する意志があるのか？」と問われます。

大事なことは、提言が採用されることだけでなく、自分達が言い出したことを仲間と協力してやり遂げること。
これからも総務課では、関わりを大切にしながらか成長していく人材育成を進め、自ら学び挑戦する職員の育成を目指します。成長した若手が、二日も早く、地域に飛び出し、まちづくりに汗を流す姿を見るのが楽しみです。



写真⑥ 実現した公用自転車（1期生）

関わりを大切にしているひとづくり

5

汗をかきかき ゴールを目指す

4

平成22年12月、半年間の研究を終えた1期生の提言は6つ。「①庁舎内に受付係を設置しよう！」「②小学校ブライダル」「③住民参加型ホームページ」「④公用自転車導入プロジェクト」「⑤人材育成を兼ねた人事管理」「⑥昭和町版事業仕分け」と個性豊かなテーマがそろいました。若手は日常の仕事を通して感じたことや、若者らしい斬新な発想、そして人事問題や町の方針に反するテーマにまで切り込みました。
総務課では「このテーマはダメだ」と切り捨てることはありません。複雑困難なテーマほど、ねばり強い研究活動が必要であり、職員の育成につながるからです。机上の空論では共感を得られない。そのため若手達は、実際に先進地に足を運んだり、何度関係者と話したり、他の自治体の情報を集めたり、アンケート調査を実施し分析したり…提言実現を目指してたくさん汗をかきます。勿論、冷や汗も（汗）。たくさん汗をかきながらゴールを目指します。